

学校教育目標

自立する生徒

～イメージ豊かに創造しよう～

- ・意欲を持って学習する人
- ・正義を重んじる人
- ・共に生きる人

城山中だより

No. 24

令和7年10月8日
綾瀬市立城山中学校
校長 熊本 丈力

10月朝会 校長 挨拶より

言葉の重み

～いじめや差別を許さない、友人と支え合い高め合うために～

今日は本校の学校教育目標から話を始めます。本校の目標「自立する生徒」というのは知っている人も多いと思いますが、目指す生徒の姿として「意欲を持って学習する人」「正義を重んじる人」「共に生きる人」も示されています。今日は、その目標の2つめ、3つめについて、具体的に日々どのように行動したらよいか、そのヒントとなる話をします。

今、2階の渡り廊下に3年生が書いた愛と感謝のメッセージが掲示されています。誰に宛てて書いたものかわからないものもありますが、どれを見ても嬉しくなる、ほっとするメッセージばかりです。言葉というのは人を元気づけたり、励ましたり、喜ばせたり大きな役割があります。逆に短い言葉でも「キモい」「うざい」といった言葉を言われたら、がっかりしたり、腹が立ったりすることになるのではないのでしょうか。そもそも「キモい」とは、気持ち悪いという意味で、自分自身に対して使う言葉。「うざい」とは、うっとうしい、面倒くさいという意味で、自分自身の感情で使う言葉で、相手に言う言葉ではないのです。

言葉に関して、参考になる詩を1つ紹介します。

『ひとつのことば』

北原白秋

ひとつのことばで	けんかして	ひとつのことばで	なかなかおり
ひとつのことばで	頭が下がり	ひとつのことばで	心が痛む
ひとつのことばで	楽しく笑い	ひとつのことばで	泣かされる
ひとつのことばは	それぞれに	ひとつのこころを	持っている
きれいなことばは	きれいな心	やさしいことばは	やさしい心
ひとつのことばを	大切に	ひとつのことばを	美しく

たった一言の言葉でも元気になったり、落ち込んだり、むかついたり、笑ったり。長い言葉でなくても、ほんとうに短い言葉、一言でも心は動かされることがあるのです。言葉にはそんな大きな力があるのですね。

学校教育目標の「正義を重んじる人」「共に生きる人」になるための一歩は、周りの者に対する言葉がけだと考えます。いじめや差別を許さない、友人と支え合い高め合おうとするためには、周りの友人に対して、温かい言葉、「がんばったね」「すごいね」「さすがだね」「ご苦労様」などを適切なタイミングで声掛けをするようにしましょう。これらの言葉を言われて嫌な気持ちになる人は一人もいないと思います。そして、スマホのSNSなどで日常的にいろいろな言葉を書き込んでいると思いますが、顔が見えないからこそ、より一層思いやりのある発言を心がけなければなりません。そして、一度ネット上にあげてしまった言葉は絶対に消せないということも覚えておきましょう。

今日は、学校教育目標から、周りへの言葉がけに気をつかうこと、一言の言葉の重みについてお話ししました。一言でいいのです。他人が元気になる言葉、それをたくさん発してください。ネット上でも、普段の生活でも同じように感謝の言葉がけ、日常生活では思いやりのある行動をしていくとよいでしょう。今日から体育祭の練習も始まります。ぜひお互いが元気の出る言葉を周りの友人にかけてみましょう。